

コンパス薬局瀬谷 スキルアップ勉強会

2017.12.14 作佐部

第77回『レミッチOD錠』

鳥居薬品株式会社 青木 利道さま

参加者：相原、松本、生越、佐藤(綾)、小西(絵)、阿部、伊藤、作佐部

透析患者は様々な合併症を抱えているが、そのうちのひとつに「かゆみ」がある。透析患者の約7割の方はかゆみに悩まされた経験があり、なかでも約4割の方は強いかゆみに悩まされているといわれている。

【効能・効果】

次の患者におけるそう痒症の改善（既存治療で効果不十分な場合に限る）

血液透析患者、慢性肝疾患患者

【用法用量】

通常、成人には、ナルフラフィン塩酸塩として1日1回2.5 μ gを夕食後又は就寝前に経口投与する。なお、症状に応じて増量することができるが、1日1回5 μ gを限度とする。

【用法及び用量に関連する使用上の注意】

○血液透析患者におけるそう痒症の改善の場合

本剤の投与から血液透析開始までは十分な間隔をあけること。〔本剤は血液透析により除去されることから、本剤服用から血液透析までの時間が短い場合、本剤の血中濃度が低下する可能性がある。〕

○腹膜透析患者におけるそう痒症の改善の場合

本剤の投与から透析液交換までは十分な間隔をあけること。〔本剤服用から透析液交換までの時間が短い場合、本剤の血中濃度が低下する可能性がある。〕

○慢性肝疾患患者におけるそう痒症の改善の場合

本剤の投与は1日1回2.5 μ gから開始し、効果不十分な場合に1日1回5 μ gへの増量を検討すること。

○本剤は口腔内で崩壊するが、口腔粘膜からの吸収により効果発現を期待する製剤ではないため、唾液又は水で飲み込むこと。

【作用機序】

ヒトオピオイド受容体発現細胞を用いた *in vitro* の受容体結合試験及び受容体作動性試験の結果から、選択的なオピオイド κ 受容体作動薬であることが示されている。

【特徴】

- ・東レ株式会社独自の技術を用いて軟カプセル剤の剤形追加（OD錠化）に成功した薬剤である。
- ・レミッチカプセルよりも小さくなったOD錠である。
- ・口腔内で速やかに崩壊する。
- ・光と湿度に対する安定性が確認されている。

【副作用】

重大な副作用

肝機能障害（頻度不明）、黄疸（頻度不明）

AST(GOT)、ALT(GPT)、Al-P、 γ -GTPの著しい上昇等を伴う肝機能障害、黄疸があらわれることがあるので、観察を十分に行い、異常が認められた場合には投与を中止し、適切な処置を行うこと。

【考察】

水あり、水なし、どちらの服用も可能であることから、高齢者など嚥下機能が低下している患者さんや、水分摂取の制限が必要とされる患者さんの利便性が向上し、服薬コンプライアンスの向上につながることを期待される。今後は軟カプセル剤からの切り替えも増えていくと予想される。また一包化において、自動分包機による耐衝撃性やフィルム剥がれ錠の光安定性の試験はしているが、推奨はしていないとの回答のため、安心して使用できるように引き続き試験を重ねていてもらいたい。

【質問事項】

Q. なぜ透析患者のそう痒症に効果的なのか？

A. 透析患者はオピオイドのバランスが崩れているため、そこに作用するレミッチは効果的である。

Q. 味は？

A. 無味。

Q. 慢性肝疾患に使用される割合は？

A. 薬価の高い薬であるため、自己負担の少ない透析患者に使用されるケースが圧倒的に多い。

以上